



さじき
〈**棧敷席**〉祭りの見どころ「かつちゃ」を特別観覧席でお楽しみいただけます。
チケットをお買い求めの方は、下記取扱窓口までお問い合わせください。
取扱窓口：FKKツアーズ株式会社 TEL.0766-44-0106



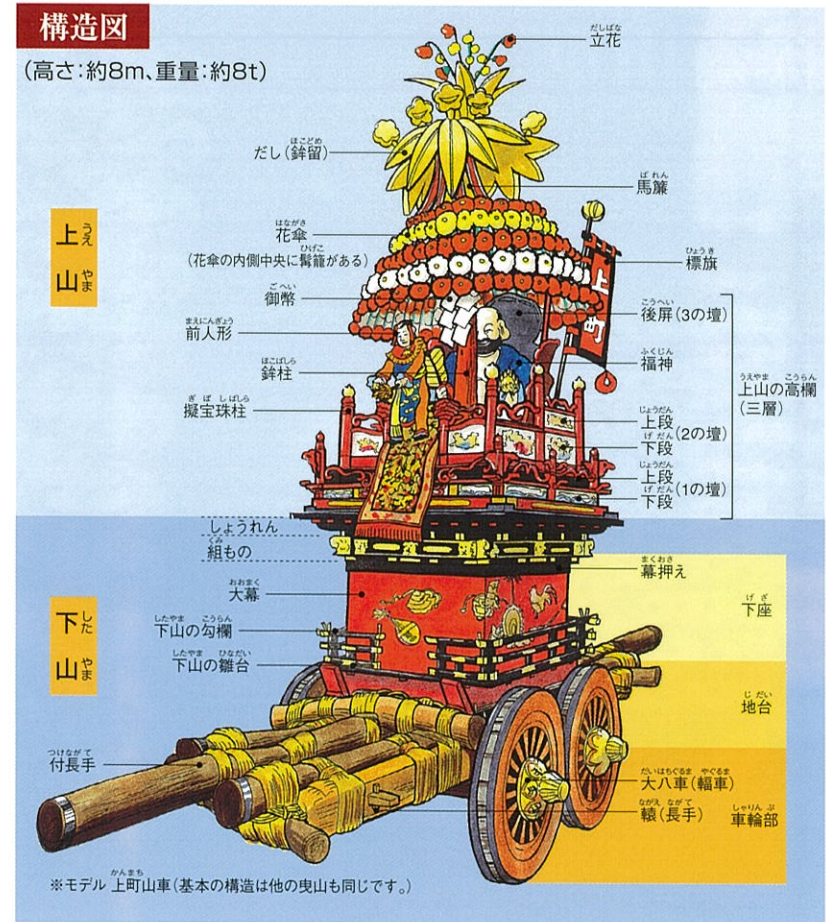
みこしとぎょ
〈**神輿渡御**〉5月第3土曜日の前日 9時～17時
伏木神社の春季例大祭の御輿の巡行に、子供達の母衣武者行列や、花傘、太鼓が随伴します。

曳山地域図



会場周辺は大変混雑するため、公共交通機関をご利用ください。伏木駅から本町広場まで徒歩約10分です。
■5月第3土曜日の前日「ライトアップ」は山倉前(予定)で行われます。(19時～21時)
■山車は午前9時に本町広場に出発式をして奉曳を開始します。
■19時30分頃のかつちゃは、6本の山車が並んで氷見伏木信用金庫前まで移動した後、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かつちゃ終了後は奉曳順路に戻ります。
■22時30分頃のかつちゃは奉曳順路途中で、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かつちゃ終了後は、伏木神社礼拝をもって祭礼行事は全て終了となります。

高岡市観光交流課
〒933-0029 富山県高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ5階
TEL. (0766) 20-1301 FAX. (0766) 20-1496
高岡市観光ポータルサイト「たかおか道るべ」 <https://www.takaoka.or.jp>
「けんか山 ホームページ」 <http://www.kenkayama.jp/>



交通のご案内



電車	東京駅	北陸新幹線 かがやき(臨時便)・はくたか (2023年2月現在)	新高岡駅
		2時間19分 2時間41分	
	大阪駅	特急サンダーバード	新高岡駅
		2時間31分	
	名古屋駅	東海道新幹線 ひかり・こだま	新高岡駅
		23分 1時間51分	
飛行機	羽田空港	全日空 1時間 富山きとときと空港 バス 富山駅	新高岡駅
		23分 16分	
自動車	練馬IC	関越自動車道 78.6km	新高岡IC
	藤岡JCT	上信越自動車道 204.7km	新高岡IC
	上越JCT	北陸自動車道 138.3km	新高岡IC
	吹田IC	名神高速 109.5km	新高岡IC
	米原JCT	北陸自動車道 203.3km	新高岡IC
	一宮IC	名神高速 4.6km	新高岡IC
	一宮JCT	東海北陸自動車道 184.8km	新高岡IC
	小矢部・砺波JCT	北陸自動車道 13.7km	新高岡IC
	小矢部・砺波JCT	北陸自動車道 13.7km	新高岡IC

〈高岡駅より〉 JR：氷見線 → 伏木駅(約15分)下車すく
バス：伏木経由氷見伏木循環(東廻り・西廻り) → 伏木支所前臨時バス停下車
5月20日(夜)は、高岡駅と伏木駅前をつなぐお祭りシャトルバス(東車無料)を運行します。
詳しくは、交通規制図(各種HP掲載)をご覧ください。

〈高岡ICより〉 国道8号線 富山方面へ「下田」交差点左折 → 約20分
〈高岡北ICより〉 県道32号線 伏木方面へ → 約15分



今夜、
本能を超えた
一撃に出会う。

五月の春の陽光の下、潮の香りを含む港町を、威勢のいい掛け声とともに練り歩く花山車。宵闇が迫る頃、それは提灯山車に組み立てられ、約三百六十個の提灯を揺らしながら、目くらむような激しいぶつかり合いを繰り広げます。伏木曳山祭、通称「けんか山」には、勇ましい港町の心意気が満ちあふれています。

伏木曳山祭

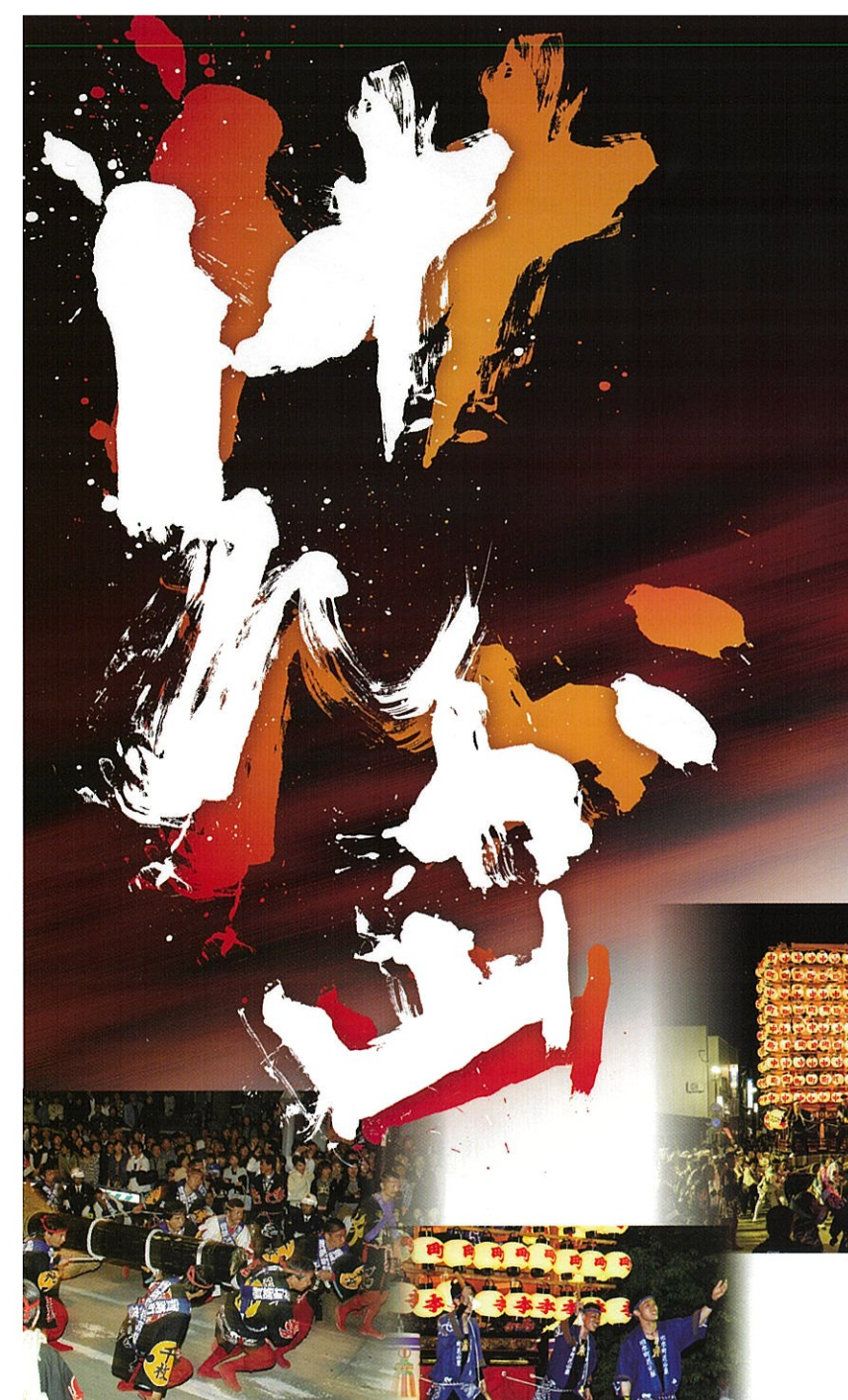
〈伏木神社春季例大祭 高岡市指定無形民俗文化財〉
毎年5月第3土曜日開催

二つの国宝があるまち高岡

富山県高岡市
開催中止、開催内容が変更となる場合があります。ご来場前には高岡市観光ポータルサイト「たかおか道るべ」で最新情報をご確認ください。



R5.3/22,000 A



ときめき、わき立つ、港町「伏木」の伝統と心。

伏木は、恵まれた地の利から、天平時代には越中国府が置かれ、万葉の歌人でもあった大伴家持が国守として、赴任。また近世からは越中有数の港町として栄えてきました。

伏木曳山祭は、その港町の海上安全と海岸を鎮護する伏木神社の春の祭礼として行われます。始まりは江戸後期の1814年(文化11年)。海岸にあった神社が波で崩れ、現在地へご神体をお渡りする時のお乗り物として曳山が造られたと伝えられています。

神座に七福神がまつられた壮麗な曳山は、まさに港町伏木の歴史文化のシンボルであり、かぎらない誇りです。

昼は美しい花傘を広げた花山車として、夜には約360個もの提灯で彩られた提灯山車として、潮風をまとい行く粋と意気がわき立つような鮮やかさ、勇壮さは人々をどよめきの渦でつつまます。



伏木神社

夜は激しく燃える炎のごとく

提灯山車

(ちょうちんやま)



「かっちゃ」に燃える、伏木の心意気。

先端に付長手という約5mの樫の大木を、大砲のごとく取り付けられた曳山の重さは約8トン。宵闇が迫ると、花山車から提灯山車へと姿を変え、期待と興奮の渦に町全体が包まれます。

やがて腹の底に共鳴するように山鹿流出陣太鼓が鳴り響くと、地鳴りとともに動き、駆ける山車と山車が全力でぶつかり合います。これが祭りの最高潮「かっちゃ」です。

「かっちゃ」は、伏木の心意気が輝き燃える一大イベントです。



〈ライトアップ〉5月第3土曜日の前日 19時～21時

山倉前にて、花山車のライトアップとともに、威勢のいい囃子で祭の前夜を盛り上げます。



昼は春の爽やかな潮風と共に

花山車

(はなやま)



町・山車	ほろまち 寶路町 せんまい山車	ほんまち 本町 がんがら山車	かんまち 上町 ささ山車	なかもち 中町 ひょうたん山車	みなとまち 湊町 ちょうちょう山車	いっさかもち 石坂町 字山車	じゅうしちけんちょう 十七軒町 ほら貝山車	
だし(鈴留)	◆重ね千枚分銅(富貴蕃財)	◆鈴鈴(宝来招福)	◆笹竜胆(延寿長生)	◆千成瓢箪(子孫萬代)	◆胡蝶(財宝福德)	◆楷書の壽の字(不老長寿)	◆法螺貝(未来永劫)	
福神	◆恵比須(制作年不詳)	◆弁財天(天明元年1781年作)	◆布袋(天明元年1781年作)	◆福祿寿(天明元年1781年作)	◆毘沙門天(明治34年1901年作)	◆大黒天(万延元年1860年作)	◆寿老人(平成16年復元)	
前入形	◆唐子(操り人形)	◆和子三番叟(操り人形)	◆唐子(操り人形)	◆唐子(操り人形)	◆唐子(操り人形)	◆唐子(操り人形)	◆唐子(平成20年復元)	
後屏(鏡板)	◆西王母(中国の故事)	◆漢の武帝(中国の故事)	◆黄石公と張良(中国の故事)	◆郝大通(中国の仙人)	◆黄石公と張良(中国の故事)	◆菊慈童(中国の故事)	◆鶴亀(中国の故事)	
特徴	後屏の主座に「標山」の西王母を立て、上山の彫りものは西王母と山神の恵比須(波濤文と「高砂」の扇)ゆかりのモチーフによって、整合的に装われています。	全体に金碧の効果が発出しており、特に竹林の緑色との対照は鮮やかです。また、白漆塗の透かし欄間は独自のもので、出来映えも見事です。	文人画の「蓬萊群仙図」を偲ばせる多数の仙人彫刻と、その構図の巧みなどで、躍動的な造形と合わせて伏木曳山の白眉と言えます。	下山の構造が伊達柱になっているなど、行装が他の山とは違っています。高欄の欄干に止まらせた小鳥はこの山の独特のデザインで、下山の彫物の均整のとれた美しさと共に見どころのひとつです。	下山の構造が伊達柱になっているなど、行装が他の山とは違っています。高欄の欄干に止まらせた小鳥はこの山の独特のデザインで、下山の彫物の均整のとれた美しさと共にラストも見事です。	唐木の後屏や褐色で統一した上山などが見事です。高欄の上段が一連の透かし彫りふうの丸彫朱欄になっており、下山の小壁部分がハメ込み式の「箱欄間」になっています。	「菊慈童」に因んだ大輪菊の彫りものが見事です。高欄の上段が一連の透かし彫りふうの丸彫朱欄になっており、下山の小壁部分がハメ込み式の「箱欄間」になっています。	十七軒町の曳山は、明治の大火で焼失しましたが、伏木町とけんか山が永遠に発展することを願って復元いたしました。高欄には、「未来永劫」を表す鶴のほか、親子獅子や四神獣の彫刻が施されています。